

## 第 84 回 高エネルギー加速器研究機構 経営協議会議事要録

日 時 令和7年6月 17 日(火) 10 時 00 分～11 時 50 分

場 所 KKR ホテル東京 + web 会議

出席者 浅井議長、岡村、小原、國井、小口、佐藤、永田、東島、松村、森、足立、長野、  
花垣、道園、元村、齊藤、船守、小関、波戸、小林の各委員  
(欠席:小松、砂押、村山の各委員)

陪席者 三明監事、白木澤監事、柴原総務部長、森安財務部長、原研究協力部長、  
永野施設部長、櫻井参事役・総務課長、島根監査室長、岩見人事担当課長、  
由井職員担当課長、飯塚財務企画課長、山口研究協力課長、枝川連携推進課長、  
根本共同利用支援課長、三國 QUP 業務推進室長、河西国際企画課長、  
横田施設企画課長、栃木資産マネジメント課長、山本整備管理課長、  
福田東海管理課長 他

### 配付資料

1. 第8期 KEK 経営協議会委員名簿
2. 第 83 回経営協議会議事要録
3. 令和6年度自己点検結果について
4. 職員給与規程等の一部改正について
5. 令和6年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について
- 6-1. 令和8年度概算要求について
- 6-2. 令和8年度概算要求について(施設関係)
7. 共通基盤研究施設報告

### ・委員の交代について

浅井議長から、資料1に基づき、新たに委員に就任した小原 春彦 氏及び砂押 道大 氏の紹介が行われた。

### 議 事

#### 1. 第 83 回議事要録について

浅井議長から、資料2の議事要録については事前に確認を終了しており、確定版を配付している旨の説明があった。

## 2. 審議

### (1) 令和6年度自己点検結果について

足立委員から、資料3に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

<主な質疑応答>

- ・昨年から新しい執行部になって、広報戦略に関する方針や計画の変更はあったか。  
→新たな取り組みとして、定例の記者懇談会を実施することにした。初回を5月に実施し、いくつかの記事にも取り上げられた。今後も、マスコミとの信頼関係を築くとともに、日頃から KEK に興味を持ってもらえるような努力を続けていきたい。
- ・海外からの受入研究者数は減少した一方で、国外機関との共同研究及び国際共著論文における国数が増加しており、また、海外からの受入研究者数増加を目標にする一方で DX 化推進に関する目標を掲げるなど、目標設定に矛盾が生じているように思われる。次期の目標設定の際には考慮すべきである。
- ・知名度に関して、研究成果は十分に上がっており、物理分野に関心のある人に対する知名度は高いと思われる。海外の研究機関や大学における知名度を測り、評価に反映させることはできないか。  
→学問分野が広がる中、近年は海外の研究者に対する知名度も決して高いものでは無いと予想する。海外に向けても、KEK でどのような研究ができるかを発信する機会を設けることで、他分野での知名度向上も図っていきたい。

### (2) 職員給与規程等の一部改正について

長野委員から、資料4に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

### (3) 令和6年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について

長野委員から、資料5に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

<主な質疑応答>

- ・外注費等が値上がりしている中での決算において、特に消費税に関して、運営費交付金の収入から業者へ支払う消費税との差額が控除されないのが実質的な予算の目減りになっている。実際に、JAEA では約 60 億円が該当し、この点について、文科省へ要求を行ったが、文科省サイドも認識していないような様子であり、交渉の余地はあるのではないかと史料する。今後、要望を出す際には KEK 及び他の機関にも是非協力をいただきたい。

### (4) 令和8年度概算要求について

長野委員から、資料6-1に基づき、道園委員から、資料6-2に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

<主な質疑応答>

- ・施設関係分について、老朽化に関する項目が多く見受けられるが、設備の更新は計画を立て、各年度の実施分を要求しているのか。要求しても予算が付かず、計画を立てては潰していると、設備保全に対するモラル低下につながる恐れがある。計画を立てるのであれば、原資を確保した上で進めることが重要である。  
→インフラ長寿命化計画を立て、それに沿った更新を想定しているが、予算との兼ね合いが

あるため必ずしも計画通りにはっていない。ただし、実施順番を決め、予算が確保出来たら順に更新を行っているため、計画自体をその都度変更しているわけではない。

- ・PFI事業に係る支出は、貸借対照表で負債にあたるものであり、すでに KEK が支払い済みの分に対して毎年度一定額ずつ予算要求していると思われるが、予算が確保できない場合は KEK の自腹になるのか。また、予算措置についてはある程度の保証があるのか。  
→毎年度予算配分されることについては、ある程度の保証があって対応している。

### 3. 研究活動報告

#### (1) 共通基盤研究施設報告

波戸委員から、資料7に基づき報告が行われた。

<主な質疑応答>

- ・報告いただいた内容は、社会への貢献だけでなく、KEK の技術的ストック、知的資産として非常に価値のあるものである。開発の過程でどのような試行錯誤や失敗があったかをドキュメントとして残していくのが重要であるが、管理及びデータ化はどのように実施しているか。

→頻繁に内部レポートを纏めるように努めているが、失敗の記録をストックすることに難しさを感じている。また、溜めたデータを誰でもアクセスできるように保存しても、必要な情報を探し出すのに苦労し、活用するまで至らない。生成 AI 等を導入するなどして、有効活用できるよう検討したい。

→企業では、製品の製造の際に不適合が出ると、不適合管理システムに登録し、検証及び記録を行っている。過去にはその記録を紙で行っていたので、前例にたどり着くのが困難であったが、近年ではデータ化したうえでAIを活用しており、容易に過去の記録にアクセスできるようになった。AIの導入を模索するためにも、まずは記録を溜めることが重要であり、注力いただきたい。

### 4. 自由討論

- ・新しいイノベーションに向けて世界が一斉に動き出す一方、各国の足並みは揃わず、困難な時代であると痛感している。そのような状況で、本日の会議中に KEK のベンチマークに関する話が出ていないのが気がかりである。世界の状況の中で KEK がどのようなポジションにいるか、世界の動向に対して KEK は追随するか静観するか等を示すべき。
- ・アメリカ航空宇宙局 (NASA) やアメリカ合衆国エネルギー省 (DOE) は、リソースを民間に活用してもらい、研究開発自体を民間企業等に移行する方向へと舵を切っている。今までは国が研究開発を主導していたため動向が把握しやすかったが、研究開発の場が移ることで、イノベーションが起こってもそれを察知できずに置き去りになることを危惧する。
- ・民間企業等との連携は重要であり、特に、スタートアップ育成は日本が諸外国に後れを取っている部分である。大学発ベンチャー等の若手を巻き込んで、何らかの成果を挙げられると良い

のではないか。

- ・視覚障がい者向けの装置や点字本などの社会貢献については、活動をまとめて社会に発信できたら良いと思われる。
  - ・ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)について、コンパクトで安価な加速器の開発を医療側は期待している。医療側も、脳腫瘍以外にマーケットを広げられるよう模索しているので、今後も連携を取り、ビジネスにつなげられるようにしていきたい。
  - ・国際協力が苦慮しているようだが、特にアメリカがトランプ政権になったことによる影響は何か出ているか。
- ポストドクの雇用が困難になったり、学生の行き来が制限されたりと若手になるほど影響が大きくなっている。特に、テニユアトラックで採用されている人がテニユアになれず去っている状況であり、若い世代は深刻な状況である。テニユアトラック制度を利用している世代の研究者がアメリカから消えつつある。

以上